

医療・介護もデジタル化

コロナ禍、スピード対応



木本 眞 今治市医師会会長

今治市出身。順天堂大学医学部卒業。1978年岡山大学医学部付属病院放射線科に入局し、1992年には助教に。専門は放射線科・内科。1995年、放射線第一病院へ。2008年に理事長就任。2014年、今治市医師会会長に就任し、地域医療の充実・連携に邁進。

「市と連携し、常に高い質を」 木本 眞 医師会長

マイタウンは、徳永繁樹市長と木本眞今治市医師会会長による特別対談を行いました。対談の中では、医療・介護のデジタル化、県病院の老朽化対策、コロナ対策のほか、安心して暮らせる魅力ある街づくりのための想いや今後の課題についても話し合いました。

マイタウン特別対談

木本眞医師会長



県病院は、老朽化対策

記者・竹葉
今治市は全国に先駆け、医療介護の分野でデジタル化を進めていますね。
木本医師会長
デジタル化の柱は、一つはオンライン診療です。希望する病院には、機械を設置しオンライン診療を始められています。もう一つは介護支援のAI導入です。県や市と連携し介護施設の利用者の見守りシステム「ひとす。希望する病院には、機械を設置しオンライン診療を始められています。もう一つは介護支援のAI導入です。県や市と連携し介護施設の利用者の見守りシステム「ひと

今治の医療を考えよう！

徳永繁樹市長×



子育て環境の充実、急務

記者
コロナ禍も今治市にはスピード感ある対応を感じました。
木本医師会長
コロナ対策はあらゆることを想定し取り組みました。市内の病院が同じ方向を向き動いてくれたこと、行政のバックアップに感謝です。特に平日はこの病院も空いていますが、土日は救急病院以外の病院が発熱外来をカバーし、複数の病院で、コロナ患者さんを診ました。またSNSのラインで、ベッドの空き状況や病棟の患者さんをタイムリーに把握しました。
徳永市長
「昨年、ワクチンをいよいよ打たないといけない時、

「制度設計し、今治の型つくる」 徳永市長



徳永 繁樹 今治市長

平成15年、愛媛県議会議員選挙に立候補し初当選以来、5選。令和3年2月に行われた今治市長選挙で初当選。スポーツ全般、観戦も趣味。

記者
子どもを取り巻く行政事務を集約する「子ども家庭庁」が4月に発足し、さらに子育て環境の充実が急務になるかと思えます。
木本医師会長
生まれた産婦人科で、すぐに赤ちゃんから採血し検査をすると、その子が5大疾病に将来かかる可能性が分かります。台湾は100%、アメリカは

この街の人のために医師会が何をやるのか、会長に就任した約10年前からぶれずに言い続けてきました。コロナになつて同じ目標に向かい、やっと連携がとれてきました。今後、市と医師会が連携を深め、さらに質の高い医療体制を提供していきます。

うがいい場合もあります。記者
県病院の老朽化対策についてはいかがでしょうか。
木本医師会長
老朽化対策に伴い、出産から小児科までの周産期センターの体制強化をはかり、ストレスフルな現代社会のため、全てに対応できる体制となることを期待します。また重症身体障がい者の子どもを在宅で診ている家が市内に約30件ありますが、その家庭には1週間程度の「時的な入院」レスパイトや、訪問看護なども考えられます。
徳永市長
選ばれる県病院にしなければいけないし、一方で今治に住んでよかつたと思える街づくりが必要で、今治市は「田舎暮らしの本2月号（宝島社）の「2023年版住みたい田舎ベストランキング」で、「人口10万人以上20万人未満のまち」のカテゴリーで「総合」若者世代単身者「子育て世代」「シニア世代」の全4部門1位に選ばれました。医療もあ

90%以上検査しています。発病前に投薬など治療をしたら病気になるまいし、また発病した後では遅い。1万人に1人の割合で発病しますが、その子の人生が全然違うため、手厚い医療がすすみずみで手が届く街にしていきたい。
徳永市長
市民の皆さんが意識すると、この街は、さらによくなる。心の豊かさを満たしていく風土がここにあり、次世代にどう残すかです。今、人気のイベント「せとうちのみなとマルシェ」のような取り組みの輪を広げ、先生や私の想いを伝えていきます。
木本医師会長